

がん検診の指針に関するアンケート
集計報告書

2019年3月

■はじめに

公益財団法人日本対がん協会(垣添忠生会長)は、2016年度から全国の自治体を対象に、「がん検診の指針に関するアンケート」を実施しています。

背景となったのは、厚生労働省が同年2月に「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針(厚生労働省健康局長通知)」を改定し、胃がん検診の方法に内視鏡検査を追加するとともに、乳がん検診では原則として視触診を除外したことです。

この指針には強制力はありませんが、市区町村が実施するがん検診の方法の「目安」となることから、胃がん検診における内視鏡検査の導入状況や、乳がん検診におけるマンモグラフィ検査単独の検診の普及状況などを把握し、今後のがん検診の方向を考えようというのが、このアンケートの目的です。

18年度は厚労省健康局の「がん検診のあり方に関する検討会」でも論議されている検診対象の上限年齢についてもお尋しました。

対象は全国1741自治体で、2018年11月にアンケート用紙を郵送、ファクスで回答していただきました。(回答は1004自治体、回答率57.7%、質問によって回答に若干の差がある)。

- ・調査方法 : 郵送によるアンケート調査
- ・調査時期 : 2018年11月発送
- ・調査対象 : 全国市区町村(1,741件)のがん検診担当者
- ・回収数 : 1,004件 (回収率 57.7%)

御礼

市区町村のご担当の皆様にはご多忙な中でアンケートにご協力をいただき、誠にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

公益財団法人日本対がん協会

◆受診対象者の年齢に上限 最も多かったのは胃がん検診で4.8%

今回、初めて上限年齢についてお尋ねしました。

最も多くの自治体が上限を設けていたのは胃がん検診で、48自治体(4.8%)でした。上限となる年齢は「79歳」が最多で23自治体、「80歳」の6自治体を加えると、上限を設けている自治体の60%が79・80歳を上限にしていました。次いで、74・75歳に設定したところが計12自治体(25%)ありました。X線検査と内視鏡検査で別の上限年齢を設けている自治体もありました。

上限設定の理由は尋ねていませんが、X線検査の場合は、バリウムの誤嚥や便秘、腸閉塞装置からの転落などのリスクを回避するためとみられます。

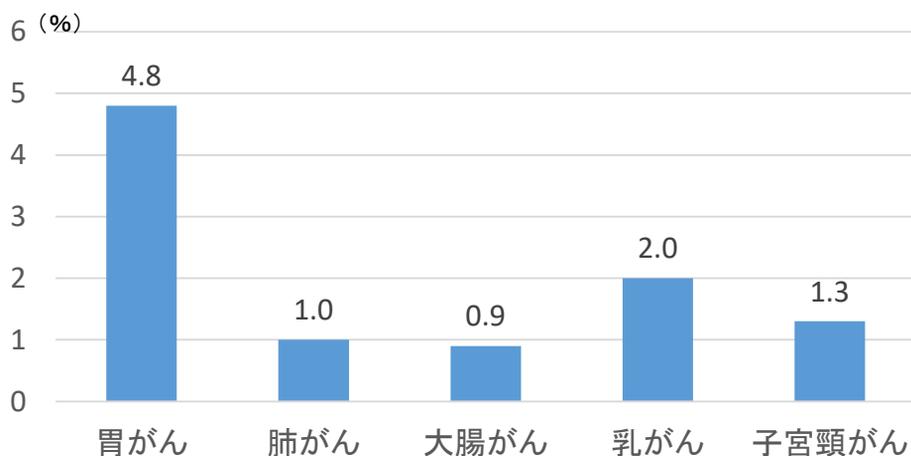
胃がん検診に次いで多かったのは乳がん検診で、20自治体(2%)が設けていました。その年齢は74歳が40%で、79歳が30%。胃がん検診と同様の傾向が見られました。

子宮頸がん検診では13自治体(1.3%)、肺がん検診は10自治体(1%)、大腸がん検診では9自治体(0.9%)となっていました。

子宮頸がん検診は79歳が62%を、大腸がん検診でも79歳が44%と多い傾向でしたが、肺がん検診では64歳から84歳まで、上限年齢が幅広く設定されていました。

厚労省のがん検診のあり方に関する検討会では、結論は出ていませんが、対象者に上限となる年齢を設けるか、それとも、上限は設けないものの、積極的に受診勧奨する範囲を設定するか等について検討されました。

さらに高齢化が進み、地域によっては高齢化率が50%を超すところもある予想されるなど、超高齢化社会を突き進む日本でどのようながん検診を実施するのか、早急に検討する必要があるのは間違いありません。



■ 上限年齢を設けている自治体の割合

◆胃がん検診：内視鏡検査を採用する自治体、2019年度(見込みを含む)は半数近くに

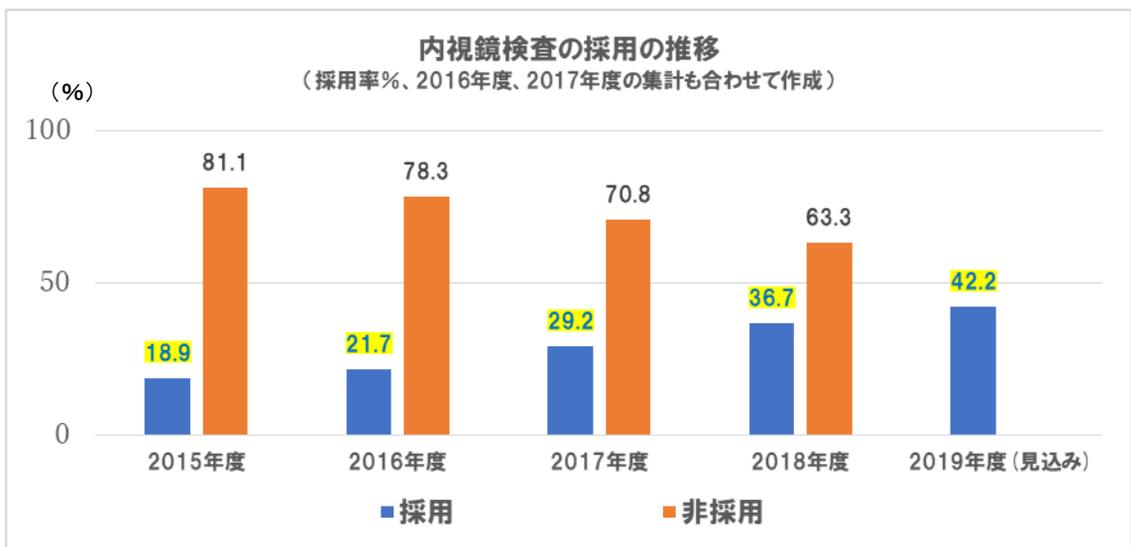
胃がん検診では、内視鏡検査を採用する自治体が増え続け、2018年度は36.7%にあたる369自治体が採用していると回答しています。19年度の予定も尋ねたところ、55自治体が採用予定と回答。すでに採用している自治体を含めると424自治体(42.2%)になり、近いうちに半数に達すると見込まれます。

その普及ぶりをみると、指針改定の影響が徐々に大きくなっていることがうかがえます。改定前の15年度から16年度にかけても増えたとはいえ、増加ぶりは2.8ポイントでした。改定後の17年度以降の対前年度比は2年連続で7.5ポイントずつの上昇でした。「採用予定」を含めると、来年度は5.5ポイントの伸びとなります。もっとも、ほとんどの自治体がX線検査の採用を続け、内視鏡検査の採用に伴ってX線検査の採用をやめる傾向はみられませんでした。

内視鏡検査を採用するにあたって課題も少なくありません。とくに検査を委託する医師の確保が最も大きいと思われます。

内視鏡検査をすでに採用している自治体のうち、160自治体が「課題はある」とし、採用していない自治体のうち314自治体が「課題の一つと認識している」と回答しています。また「医師不足ができない限り採用できそうにない」というところも166自治体にのぼっています。

また今回のアンケートでは尋ねていませんが、内視鏡検査の読影体制の整備も重要な課題です。一般に内視鏡検査のほうがX線検査よりも感度が高いと考えられていますが、内視鏡検査にも「見落とし」があります。内視鏡検査の採用にあたって二重読影ができる体制整備が欠かせません。



◆対象年齢を引き上げ、間隔を延長する自治体が増加

厚生労働省は、内視鏡検査の追加に伴い、胃がん検診の対象を「40歳以上」から「50歳以上」に引き上げ、検診の間隔を「1年に1回」から「2年に1回」に延長しました(X線検査の場合は当面の間、40歳以上、1年に1回も可としています)。これにあわせる自治体も徐々に増えています。

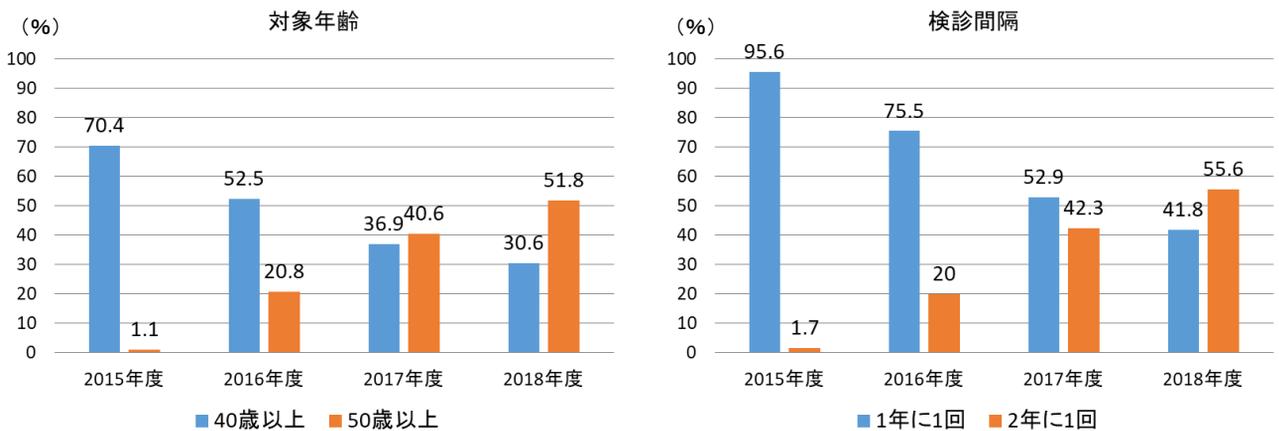
内視鏡検査の対象を「50歳以上」と回答している自治体は、2017年度の111自治体から18年度は191自治体と大幅に増えました。

検診間隔も「2年に1回」と回答したところは、17年度の113自治体から18年度は202自治体に増えています。19年度の見込みを含めて今後の方向性を尋ねたところ、回答のあった135自治体のうち112自治体が「50歳以上、2年に1回」と回答しており、さらに増える傾向がうかがえました。

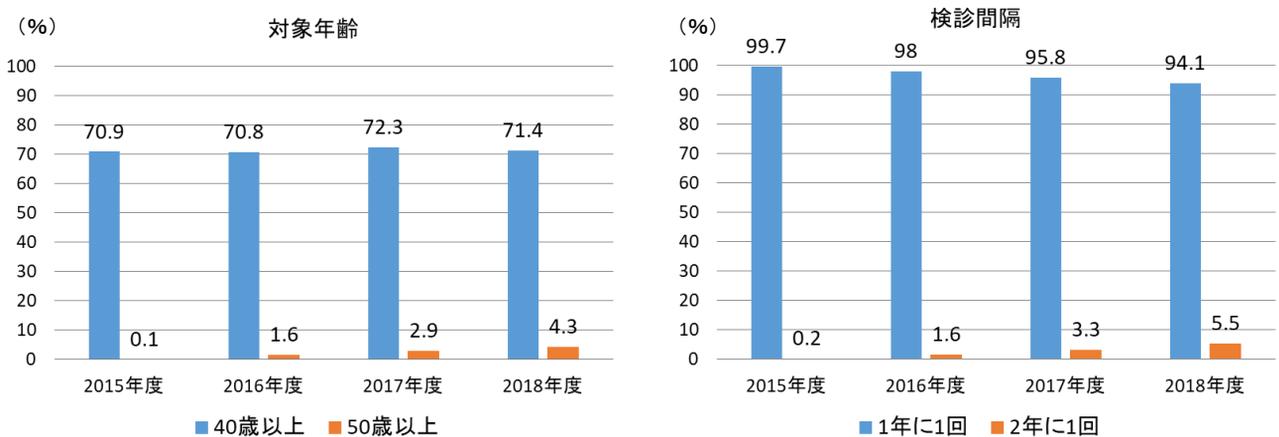
この検診間隔の延長と、対象年齢の引き上げは、わずかながらX線検査にも及んでいます。X線検査の対象年齢を「50歳以上」と回答した自治体は、18年度が42自治体で、17年度の31自治体より11自治体増えていました。検診間隔も「2年に1回」と回答したところは17年度が37自治体だったのが、18年度には53自治体と16自治体増えていきます。2019年の予定でも「50歳以上、2年に1回」は42自治体ありました。

対象年齢の引き上げ、検診間隔の延長が、胃がんの発見状況にどのように影響するのか、もしくは影響しないのか、住民の方々の健康に直結する問題です。発見状況の変化を調査することが欠かせません。

内視鏡検査の対象年齢と検診間隔の推移
(2016年度、2017年度の集計も合わせて作成)



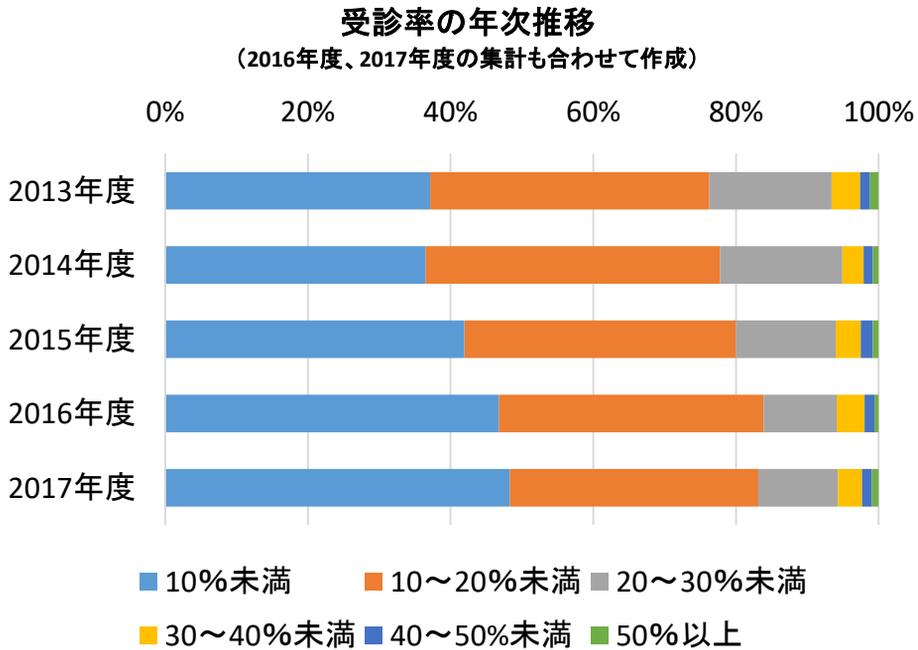
X線検査の対象年齢と検診間隔の推移
(2016年度、2017年度の集計も合わせて作成)



◆受診率は減少傾向が進む

受診率についても、各自治体が公表している数字を記入してもらいました。その数字を階級別(10%未満、10～20%未満、20～30%未満、30～40%未満、40～50%未満、50%以上)に分類し、それぞれの階級別の自治体数をグラフにして、2013年度から2017年度にかけての推移を示したのが、下のグラフです。

10%未満の自治体が増えているのに対し、10～20%未満、20～30%未満の自治体が減少傾向にあることがうかがえ、全体的に受診率が下がっている様子が示されました。



◆乳がん検診：視触診をやめる自治体が増加、一方で指針にない超音波検査の導入進む

厚労省のがん検診の指針(健康局長通知)では、乳がん検診は、40歳以上を対象に、マンモグラフィ検査を2年に1回実施することが推奨されています。この指針は、いわば「目安」で、従わなければならない義務はありませんが、厚労省が、死亡率減少効果のある(有効な)乳がん検診として推奨していることも間違いのないことです。

今回のアンケートから各自治体の状況をうかがうと——指針の改定に沿って、視触診を外す自治体が増えています。

従来の標準「視触診+マンモグラフィ検査」を2017年度に採用していると回答したところは360自治体でしたが、18年度は286自治体に減少していました。

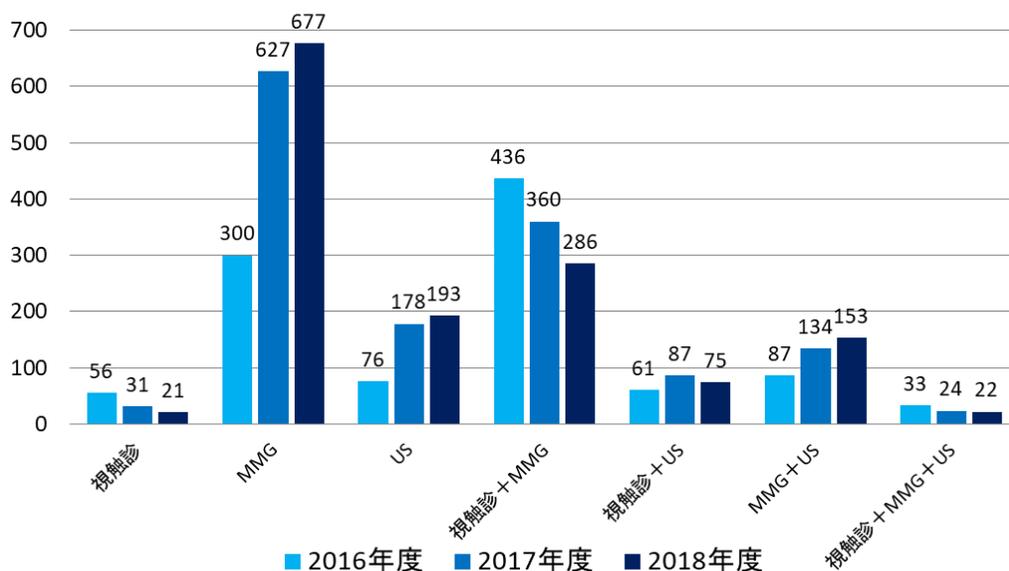
これに対して、マンモグラフィ検査単独と回答したのは17年度の627自治体から18年度は677自治体が増えていました。視触診単独という自治体は17年度の31自治体から18年度には21自治体に減っています。

今回のアンケートでも、超音波検査を採用する自治体が増えつつあることがうかがえました。「マンモグラフィ検査+超音波検査」と回答した自治体は17年度の134自治体から18年度は153自治体に、超音波検査単独と回答したところも178自治体から193自治体が増えていました＝グラフ参照(MMGはマンモグラフィ検査、USは超音波検査、参考までに2016年度からの3年間の推移を示した)。

「視触診+超音波検査」のように、視触診と併用している自治体は減少しているので、超音波単独検査が増えた背景には、視触診外しの影響があると思われますが、「マンモグラフィ検査+超音波検査」が増えている理由に、マンモグラフィ画像では「見えにくい」とされる「高濃度乳房」の問題が影響しているとみられます。

検査方法別自治体数の年次推移

(2016年度と2017年度の集計も合わせて作成、回答自治体数の違いに注意)



◆厚労省指針より「幅広い」対象年齢

一方、乳がん検診の対象年齢をみると、それぞれの検査方法とも、「20歳以上」「30歳以上」など、厚労省の指針が対象とする「40歳以上」より幅広く設定されています。検診間隔も、毎年のあるところがあったり、2年に1回の自治体があったり、また、同じ自治体でも、マンモグラフィ検査は40歳以上とし、30歳から40歳未満は超音波検査の対象とするなど、複数の方法を採用しているところもあります。

総じて、乳がん検診は、厚労省の指針よりも幅広い年齢を対象に実施している自治体が多く見受けられます。

厚労省の「がん検診のあり方に関する検討会」の議論では、科学的根拠のないがん検診は推奨しない方向が示されています。その議論の対象となっているのは主に前立腺がん検診や甲状腺がん検診などですが、乳がん検診に関しても今後言及するのでしょうか。2019年度以降、指針の改定論議が注目されます。

◆「高濃度乳房問題」

今回も、昨年度に引き続いて「高濃度乳房」への対応を尋ねました。

まず、受診者の乳房構成を4つのタイプ(高濃度、不均一高濃度、乳腺散在、脂肪性)別に把握していますか、と質問したところ、274自治体(27.3%)から「把握している」との回答が寄せられました。

昨年度のアンケートでは、「把握している」が25.1%でした。アンケート自体への回答のあった自治体が昨年度と今年度とは異なるので厳密な比較にはなりません、傾向としては微増していました。

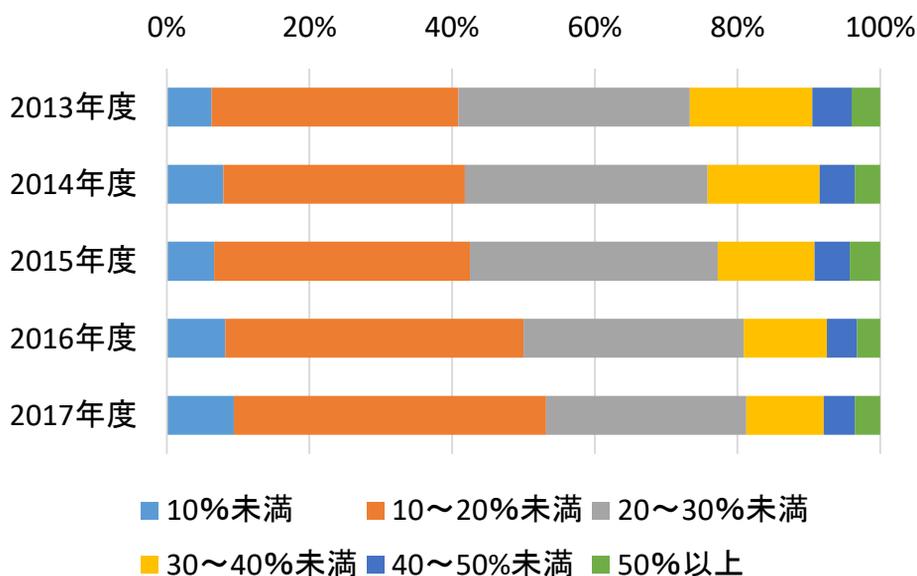
この274自治体のうち、乳房構成(4つのタイプ)を「(自治体自ら)受診者に伝えている」と回答したのは83自治体(30.3%)で、そのうち53自治体が「さらなる検査」の受診を勧めているとの回答がありました。アンケートに回答のあった自治体のうち、5.3%が乳房構成を受診者に伝え、高濃度乳房の場合に「さらなる検査」を勧めていることとなります。

その「さらなる検査」は、超音波検査が多いとみられます。マンモグラフィ検査の後、超音波検査を実施することで、乳がんによる死亡率減少効果があったとは証明されていませんが、マスコミやインターネットで高濃度乳房について報道され、不安に感じた受診者への対応を模索している自治体の状況がうかがえる結果となりました。

◆受診率 低めの自治体が増え、高めの自治体が減少傾向に

乳がん検診の受診率についても引き続き尋ねました。参考までに、これまでのアンケート、2014年度からの4年間について、胃がん検診の場合と同様にグラフにしてみました。胃がん検診よりも高いレベルにありますが、30～40%未満、20～30%未満が減少傾向にある一方で、10～20%未満という低めの自治体が増えているのが懸念されます。

受診率の年次推移
(2016年度、2017年度の集計も合わせて作成)



■がん検診の上限年齢について

5がん検診の上限年齢について

国が勧めている5がん検診で、今年度(2018年度)上限年齢を設けていますか。設けている場合は具体的な年齢もご記入ください。また、来年度設ける予定がある場合、検査方法で異なる場合等は備考欄にご記入ください。

		回答数	割合	
胃がん	上限年齢あり・総数		48	4.8%
	内訳	70歳未満	1	2.1%
		74歳	9	18.8%
		75歳	3	6.3%
		79歳	23	47.9%
		80歳	6	12.5%
		81歳以上	5	10.4%
		その他	1	2.1%
肺がん	上限年齢あり・総数		10	1.0%
	内訳	70歳未満	2	20.0%
		74歳	2	20.0%
		75歳	1	10.0%
		79歳	2	20.0%
		80歳	1	10.0%
		81歳以上	2	20.0%
		大腸がん	上限年齢あり・総数	
内訳	70歳未満		0	0.0%
	74歳		0	0.0%
	75歳		1	11.1%
	79歳		4	44.4%
	80歳		0	0.0%
	81歳以上		4	44.4%
	乳がん		上限年齢あり・総数	
内訳		70歳未満	0	0.0%
		74歳	8	40.0%
		75歳	2	10.0%
		79歳	6	30.0%
		80歳	0	0.0%
		81歳以上	4	20.0%
		子宮頸がん	上限年齢あり・総数	
内訳	70歳未満		0	0.0%
	74歳		0	0.0%
	75歳		1	7.7%
	78歳		1	7.7%
	79歳		8	61.5%
	80歳		0	0.0%
	81歳以上		3	23.1%

■胃がん検診の実施状況について ～ X線検査編 ①

Q1 2017年度と2018年度において、貴自治体で採用している検査方法、それぞれの受診対象や検査間隔、検査費用についてご記入ください。

2017年度

		回答数	割合
X線検査	採用の有無	採用	992 99.0%
		非採用	10 1.0%
		合計	1,002 100.0%
	受診対象	40歳以上	699 71.2%
		50歳以上	31 3.2%
		その他	252 25.7%
		合計	982 100.0%
	受診間隔	1年に1回	946 95.9%
		2年に1回	37 3.8%
		その他	3 0.3%
		合計	986 100.0%
	検査費用	～4000円	76 11.3%
		4001～5000円	317 47.2%
		5001～6000円	130 19.3%
		6001～7000円	18 2.7%
		7001～8000円	21 3.1%
		8001円～	110 16.4%
		回答数合計	672 100.0%
	検査費用 ～集団検診	～4000円	8 7.4%
		4001～5000円	67 62.0%
5001～6000円		21 19.4%	
6001～7000円		4 3.7%	
7001～8000円		3 2.8%	
8001円～		5 4.6%	
回答数合計		108 100.0%	
検査費用 ～個別検診	～6000円	2 2.2%	
	6001～10000円	11 12.2%	
	10001～12000円	25 27.8%	
	12001～14000円	34 37.8%	
	14001円～	18 20.0%	
回答数合計	90 100.0%		
自己負担額	0円	94 12.5%	
	1～500円	134 17.8%	
	501～1000円	273 36.4%	
	1001～2000円	199 26.5%	
	2001～3000円	34 4.5%	
	3001円～	17 2.3%	
	回答数合計	751 100.0%	
自己負担額 ～集団検診	0円	5 6.0%	
	1～500円	14 16.7%	
	501～1000円	37 44.0%	
	1001～2000円	27 32.1%	
	2001～3000円	1 1.2%	
	3001円～	0 0.0%	
回答数合計	84 100.0%		
自己負担額 ～個別検診	0円	1 1.4%	
	1～500円	0 0.0%	
	501～1000円	7 9.7%	
	1001～2000円	23 31.9%	
	2001～3000円	24 33.3%	
	3001円～	17 23.6%	
回答数合計	72 100.0%		

内訳→

20歳未満	23	9.1%
20歳	41	16.3%
30歳	97	38.5%
35歳	78	31.0%
その他、無回答	13	5.2%
合計	252	100.0%

■胃がん検診の実施状況について ～ X線検査編 ②

2018年度

		回答数	割合
X線検査	採用の有無	採用	990 99.0%
		非採用	10 1.0%
		合計	1,000 100.0%
	受診対象	40歳以上	690 71.4%
		50歳以上	42 4.3%
		その他	235 24.3%
		合計	967 100.0%
	受診間隔	1年に1回	899 94.1%
		2年に1回	53 5.5%
		その他	3 0.3%
合計		955 100.0%	
検査費用	～4000円	67 10.0%	
	4001～5000円	306 45.5%	
	5001～6000円	150 22.3%	
	6001～7000円	16 2.4%	
	7001～8000円	24 3.6%	
	8001円～	109 16.2%	
	回答数合計	672 100.0%	
検査費用 ～集団検診	～4000円	7 6.5%	
	4001～5000円	63 58.3%	
	5001～6000円	25 23.1%	
	6001～7000円	6 5.6%	
	7001～8000円	3 2.8%	
	8001円～	4 3.7%	
	回答数合計	108 100.0%	
検査費用 ～個別検診	～6000円	2 2.2%	
	6001～10000円	12 13.0%	
	10001～12000円	25 27.2%	
	12001～14000円	35 38.0%	
	14001円～	18 19.6%	
	回答数合計	92 100.0%	
自己負担額	0円	94 12.8%	
	1～500円	134 18.2%	
	501～1000円	265 36.0%	
	1001～2000円	195 26.5%	
	2001～3000円	32 4.3%	
	3001円～	17 2.3%	
	回答数合計	737 100.0%	
自己負担額 ～集団検診	0円	4 4.8%	
	1～500円	13 15.5%	
	501～1000円	38 45.2%	
	1001～2000円	28 33.3%	
	2001～3000円	1 1.2%	
	3001円～	0 0.0%	
	回答数合計	84 100.0%	
自己負担額 ～個別検診	0円	1 1.4%	
	1～500円	0 0.0%	
	501～1000円	7 9.6%	
	1001～2000円	23 31.5%	
	2001～3000円	23 31.5%	
	3001円～	19 26.0%	
	回答数合計	73 100.0%	

内訳→

20歳未満	22	9.4%
20歳	38	16.2%
30歳	87	37.0%
35歳	71	30.2%
その他、無回答	17	7.2%
合計	235	100.0%

■胃がん検診の実施状況について ～ 内視鏡検査編

2017年度

		回答数	割合
内視鏡検査	採用の有無	採用	292 29.2%
		非採用	709 70.8%
		合計	1,001 100.0%
	受診対象	40歳以上	121 41.7%
		50歳以上	111 38.3%
		その他	58 20.0%
		合計	290 100.0%
	受診間隔	1年に1回	166 58.2%
		2年に1回	113 39.6%
		その他	6 2.1%
		合計	285 100.0%
	検査費用	～10,000円	14 6.2%
		10001～12000円	21 9.3%
		12001～14000円	47 20.7%
		14001～16000円	86 37.9%
		16001～18000円	40 17.6%
		18001円～	19 8.4%
		回答数合計	227 100.0%
	自己負担額	0円	17 7.6%
		1～1000円	16 7.1%
		1001～2000円	60 26.7%
		2001～3000円	51 22.7%
		3001～4000円	41 18.2%
4001円～		40 17.8%	
回答数合計	225 100.0%		

内訳→

20歳未満	4	6.9%
20歳	8	13.8%
30歳	13	22.4%
35歳	7	12.1%
その他、無回答	26	44.8%
合計	58	100.0%

2018年度

		回答数	割合
内視鏡検査	採用の有無	採用	369 36.7%
		非採用	636 63.3%
		合計	1,005 100.0%
	受診対象	40歳以上	113 30.6%
		50歳以上	191 51.8%
		その他	65 17.6%
		合計	369 100.0%
	受診間隔	1年に1回	152 41.9%
		2年に1回	202 55.6%
		その他	9 2.5%
		合計	363 100.0%
	検査費用	～10,000円	12 4.1%
		10001～12000円	18 6.2%
		12001～14000円	61 21.0%
		14001～16000円	105 36.2%
		16001～18000円	68 23.4%
		18001円～	26 9.0%
		回答数合計	290 100.0%
	自己負担額	0円	22 7.4%
		1～1000円	14 4.7%
		1001～2000円	78 26.2%
		2001～3000円	72 24.2%
		3001～4000円	59 19.8%
4001円～		53 17.8%	
回答数合計	298 100.0%		

内訳→

20歳未満	5	7.7%
20歳	7	10.8%
30歳	13	20.0%
35歳	7	10.8%
その他、無回答	33	50.8%
合計	65	100.0%

■胃がん検診の実施状況について

Q2 X線検査を採用されている自治体にお聞きます。2019年度のX線検査の受診対象と受診間隔はどうされる予定ですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	回答数	割合
1. 40歳以上、1年に1回	694	70.1%
2. 40歳以上、2年に1回	14	1.4%
3. 50歳以上、1年に1回	7	0.7%
4. 50歳以上、2年に1回	42	4.2%
5. その他	232	23.4%
6. 無回答	1	0.1%
合計	990	100.0%

内訳→

20歳以上、1年に1回	33	3.3%
30歳以上、1年に1回	80	8.1%
35歳以上、1年に1回	61	6.2%

Q3 内視鏡検査を採用されていない自治体にお聞きます。

①今後の採用予定について、あてはまるものひとつに○をつけてください。

	回答数	割合
1. 2019年度から実施しようと準備を進めている	55	8.6%
2. 実施に向けて検討を進めているが、開始年度は未定	174	27.4%
3. 検討したが、今のところ採用する予定はない	218	34.3%
4. 検討していない	140	22.0%
5. その他	38	6.0%
6. 無回答	11	1.7%
合計	636	100.0%

③採用予定のある自治体へお聞きます。内視鏡検査の受診対象と受診間隔はどうされる予定ですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	回答数	割合
1. 40歳以上、1年に1回	7	3.1%
2. 40歳以上、2年に1回	7	3.1%
3. 50歳以上、1年に1回	9	3.9%
4. 50歳以上、2年に1回	112	48.9%
5. その他	70	30.6%
6. 無回答	24	10.5%
合計	229	100.0%

Q4 引き続き内視鏡検査についてお聞きます。医師の確保に悩まれる自治体が多いと伺っていますが、貴自治体ではいかがですか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

	回答数	割合
1. すでに実施しているが、とくに問題はない	189	18.8%
2. すでに実施しているが、課題はあると認識している	160	15.9%
3. まだ実施していないが、その点は問題ないと認識している	45	4.5%
4. まだ実施していないが、その点は課題の一つと認識している	314	31.3%
5. 大きな課題である。医師不足が解消できない限り採用できそうにない	166	16.5%
6. その他	38	3.8%
7. 無回答	92	9.2%
合計	1,004	100.0%

Q5 ABCリスク評価などについてお聞きます。貴自治体では、ABCリスク評価などを実施していますか。

	回答数	割合
1. 実施している	317	31.6%
2. いつから実施していますか	—	—
3. 2019年度から採用する予定	10	1.0%
4. 採用に向けて検討中、採用年度はまだ決まっていない	40	4.0%
5. 採用する予定はない	584	58.2%
6. その他	34	3.4%
7. 無回答	19	1.9%
合計	1,004	100.0%

内訳→

	回答数	割合
ABCリスク評価	144	45.4%
ペプシノゲン法	4	1.3%
ピロリ菌の検査	86	27.1%
その他	1	0.3%
無記入	82	25.9%
合計	317	100.0%

■いつから実施していますか～実施年度

	回答数	割合
2018年度	36	11.4%
2017年度	43	13.6%
2016年度	50	15.8%
2015年度	42	13.2%
2014年度	48	15.1%
2013年度以前	68	21.5%
その他、無記入	30	9.5%
合計	317	88.6%

■胃がん検診の実施状況について

Q6 ABCリスク評価を実施している自治体にお聞きます。受診対象はどうされていますか。

	回答数	割合
1. 胃X線や内視鏡検査をやめてABCリスク評価に切り替えた	8	2.5%
2. 胃X線や内視鏡検査と併用して実施している	74	23.3%
3. 節目年齢を対象に実施している	104	32.8%
4. 希望者を対象に実施している	65	20.5%
5. その他	49	15.5%
6. 無回答	17	5.4%
合計	317	100.0%

1. の対象年齢

	回答数	割合
20歳未満	0	0.0%
20代	0	0.0%
30代	1	12.5%
40代	6	75.0%
50代	0	0.0%
その他	1	12.5%
合計	8	100.0%

2. の対象年齢

	回答数	割合
20歳未満	2	2.7%
20代	12	16.2%
30代	7	9.5%
40代	49	66.2%
50代	4	5.4%
その他	0	0.0%
合計	74	100.0%

Q7 2015・2016・2017年度の貴自治体における胃がん検診の受診率をご記入ください。

2015年度

	回答数	割合
～10%未満	406	40.4%
10～20%未満	367	36.6%
20～30%未満	136	13.5%
30～40%未満	34	3.4%
40～50%未満	16	1.6%
50%～	8	0.8%
無回答	37	3.7%
合計	1004	100.0%

2016年度

	回答数	割合
～10%未満	455	45.3%
10～20%未満	360	35.9%
20～30%未満	99	9.9%
30～40%未満	38	3.8%
40～50%未満	13	1.3%
50%～	6	0.6%
無回答	33	3.3%
合計	1004	96.7%

2017年度

	回答数	割合
～10%未満	457	45.5%
10～20%未満	329	32.8%
20～30%未満	105	10.5%
30～40%未満	32	3.2%
40～50%未満	13	1.3%
50%～	9	0.9%
無回答	59	5.9%
合計	1004	100.0%

この受診率は、何をもとに算定されたものですか。

	回答数	割合
1. 国が推奨した算出方式	535	53.3%
2. 県、もしくは市町村独自で作成した算出方式	367	36.6%
3. その他	76	7.6%
無回答	26	2.6%
合計	1,004	100.0%

■乳がん検診の実施状況について

Q9 2017・2018年度に貴自治体で採用している検査方法ではまるものひとつに○をつけ、検査方法ごとの対象年齢と検査間隔をご記入ください。

視触診のみ

		回答数	割合
2017年度	採用の有無	採用	31 3.1%
	対象年齢	20歳以上	2 6.5%
		30歳以上	9 29.0%
		35歳以上	0 0.0%
		40歳以上	1 3.2%
		その他	19 61.3%
		回答数合計	31 100.0%
	検査間隔	1年に1回	25 80.6%
		2年に1回	4 12.9%
		その他	2 6.5%
		回答数合計	31 100.0%

※対象年齢「その他」の主な内訳

40歳以上 奇数年齢
30～39歳 偶数年齢
25～39歳
30～34歳と70歳以上の女性
個別:40歳以上
40歳以上 年度内に奇数歳になる人
20～29歳
40歳以上で医師がマンモグラフィ検査が実施できないと判断した人
20～39歳

		回答数	割合
2018年度	採用の有無	採用	21 2.1%
	対象年齢	20歳以上	1 4.8%
		30歳以上	6 28.6%
		35歳以上	0 0.0%
		40歳以上	3 14.3%
		その他	11 52.4%
		回答数合計	21 100.0%
	検査間隔	1年に1回	15 71.4%
		2年に1回	5 23.8%
		その他	1 4.8%
		回答数合計	21 100.0%

※対象年齢「その他」の主な内訳

40歳以上 奇数年齢	1	4.8%
30～39歳 偶数年齢	1	4.8%
30～39歳	7	33.3%
30～34歳と70歳以上の女性	1	4.8%
40歳以上 年度内に奇数歳になる人	1	4.8%

※分母は回答数合計

■乳がん検診の実施状況について

マンモのみ

			回答数	割合
2017年度	採用の有無	採用	627	62.5%
		対象年齢		
		20歳以上	8	1.3%
		30歳以上	40	6.4%
		35歳以上	10	1.6%
		40歳以上	457	72.9%
		その他	112	17.9%
		回答数合計	627	100.0%
	検査間隔	1年に1回	131	20.9%
		2年に1回	464	74.0%
		その他	32	5.1%
		回答数合計	627	100.0%

※対象年齢「その他」の主な内訳

50歳以上	6	1.0%
40～74歳	9	1.4%
40～79歳	4	0.6%
40歳以上、偶数年齢	21	3.3%

※分母は回答数合計

			回答数	割合
2018年度	採用の有無	採用	677	67.4%
		対象年齢		
		20歳以上	8	1.2%
		30歳以上	39	5.8%
		35歳以上	8	1.2%
		40歳以上	511	75.5%
		その他	111	16.4%
		回答数合計	677	100.0%
	検査間隔	1年に1回	143	21.1%
		2年に1回	508	75.0%
		その他	26	3.8%
		回答数合計	677	100.0%

※対象年齢「その他」の主な内訳

50歳以上	9	1.3%
40～74歳	10	1.5%
40～79歳	4	0.6%
40歳以上、偶数年齢	17	2.5%

※分母は回答数合計

■乳がん検診の実施状況について

超音波(エコー)のみ

			回答数	割合
2017年度	採用の有無	採用	178	17.7%
	対象年齢	20歳以上	8	4.5%
		30歳以上	27	15.2%
		35歳以上	0	0.0%
		40歳以上	4	2.2%
		その他	139	78.1%
		回答数合計	178	100.0%
	検査間隔	1年に1回	109	61.2%
		2年に1回	43	24.2%
		その他	26	14.6%
		回答数合計	178	100.0%

※対象年齢「その他」の主な内訳

50歳以上	6	1.0%
40～74歳	9	1.4%
40～79歳	4	0.6%
40歳以上、偶数年齢	21	3.3%

※分母は回答数合計

			回答数	割合
2018年度	採用の有無	採用	193	19.2%
	対象年齢	20歳以上	8	4.1%
		30歳以上	28	14.5%
		35歳以上	0	0.0%
		40歳以上	5	2.6%
		その他	152	78.8%
		回答数合計	193	100.0%
	検査間隔	1年に1回	117	60.6%
		2年に1回	45	23.3%
		その他	31	16.1%
		回答数合計	193	100.0%

50歳以上	9	1.3%
40～74歳	10	1.5%
40～79歳	4	0.6%
40歳以上、偶数年齢	17	2.5%

※分母は回答数合計

■乳がん検診の実施状況について

視触診+マンモ

			回答数	割合	
2017年度	採用の有無	採用	360	35.9%	
		未採用			
	視触診 対象年齢	20歳以上	8	2.2%	
		30歳以上	33	9.2%	
		35歳以上	7	1.9%	
		40歳以上	242	67.2%	
		その他	70	19.4%	
		回答数合計	360	100.0%	
	視触診 検査間隔	1年に1回	85	23.6%	
		2年に1回	250	69.4%	
		その他	25	6.9%	
		回答数合計	360	100.0%	
	2018年度	採用の有無	採用	286	28.5%
			未採用		
マンモ 対象年齢		20歳以上	4	1.1%	
		30歳以上	26	7.2%	
		35歳以上	7	1.9%	
		40歳以上	254	70.6%	
		その他	69	19.2%	
		回答数合計	360	100.0%	
マンモ 検査間隔		1年に1回	76	21.1%	
		2年に1回	251	69.7%	
		その他	33	9.2%	
		回答数合計	360	100.0%	

内訳→

40～59歳	7	1.9%
40～64歳	4	1.1%
40～69歳	2	0.6%
40～74歳	3	0.8%
40～79歳	1	0.3%
40歳以上、偶数年齢	24	6.7%

※分母は回答数合計

内訳→

40～59歳	6	1.7%
40～64歳	3	0.8%
40～69歳	2	0.6%
40～74歳	3	0.8%
40～79歳	1	0.3%
40歳以上、偶数年齢	21	5.8%

※分母は回答数合計

			回答数	割合	
2018年度	採用の有無	採用	286	28.5%	
		未採用			
	視触診 対象年齢	20歳以上	4	1.4%	
		30歳以上	24	8.4%	
		35歳以上	4	1.4%	
		40歳以上	195	68.2%	
		その他	59	20.6%	
		回答数合計	286	100.0%	
	視触診 検査間隔	1年に1回	68	23.8%	
		2年に1回	195	68.2%	
		その他	23	8.0%	
		回答数合計	286	100.0%	
	2019年度	採用の有無	採用	286	28.5%
			未採用		
マンモ 対象年齢		20歳以上	3	1.0%	
		30歳以上	20	7.0%	
		35歳以上	4	1.4%	
		40歳以上	203	71.0%	
		その他	56	19.6%	
		回答数合計	286	100.0%	
マンモ 検査間隔		1年に1回	66	23.1%	
		2年に1回	195	68.2%	
		その他	25	8.7%	
		回答数合計	286	100.0%	

内訳→

40～59歳	3	1.0%
40～64歳	4	1.1%
40～69歳	3	0.8%
40～74歳	3	0.8%
40～79歳	1	0.3%
40歳以上、偶数年齢	20	5.6%

※分母は回答数合計

内訳→

40～59歳	3	0.8%
40～64歳	3	0.8%
40～69歳	2	0.7%
40～74歳	3	1.0%
40～79歳	1	0.3%
40歳以上、偶数年齢	13	4.5%

※分母は回答数合計

■乳がん検診の実施状況について

視触診＋エコー

			回答数	割合
2017年度	採用の有無	採用	87	8.7%
	視触診 対象年齢	20歳以上	7	8.0%
		30歳以上	19	21.8%
		35歳以上	0	0.0%
		40歳以上	2	2.3%
		その他	59	67.8%
		回答数合計	87	100.0%
	視触診 検査間隔	1年に1回	56	64.4%
		2年に1回	23	26.4%
		その他	8	9.2%
		回答数合計	87	100.0%
	2018年度	エコー 対象年齢	20歳以上	7
30歳以上			18	20.7%
35歳以上			0	0.0%
40歳以上			2	2.3%
その他			60	69.0%
		回答数合計	87	100.0%
エコー 検査間隔		1年に1回	55	63.2%
		2年に1回	24	27.6%
		その他	8	9.2%
		回答数合計	87	100.0%

内訳→

20～29歳	3	3.4%
20～39歳	3	3.4%
30～39歳	29	33.3%
30～49歳	4	4.6%

※分母は回答数合計

内訳→

20～29歳	3	3.4%
20～39歳	3	3.4%
30～39歳	29	33.3%
30～49歳	4	4.6%

※分母は回答数合計

			回答数	割合
2018年度	採用の有無	採用	75	7.5%
	視触診 対象年齢	20歳以上	6	8.0%
		30歳以上	18	24.0%
		35歳以上	0	0.0%
		40歳以上	2	2.7%
		その他	49	65.3%
		回答数合計	75	100.0%
	視触診 検査間隔	1年に1回	45	60.0%
		2年に1回	24	32.0%
		その他	6	8.0%
		回答数合計	75	100.0%
	2019年度	エコー 対象年齢	20歳以上	6
30歳以上			17	22.7%
35歳以上			0	0.0%
40歳以上			2	2.7%
その他			50	66.7%
		回答数合計	75	100.0%
エコー 検査間隔		1年に1回	45	60.0%
		2年に1回	24	32.0%
		その他	6	8.0%
		回答数合計	75	100.0%

内訳→

20～29歳	1	1.3%
20～39歳	4	5.3%
30～39歳	25	33.3%
30～49歳	4	5.3%

※分母は回答数合計

内訳→

20～29歳	1	1.3%
20～39歳	4	5.3%
30～39歳	25	33.3%
30～49歳	4	5.3%

※分母は回答数合計

■乳がん検診の実施状況について

マンモ+エコー

			回答数	割合
2017年度	採用の有無	採用	134	13.3%
		マンモ対象年齢		
		20歳以上	5	3.7%
		30歳以上	8	6.0%
		35歳以上	0	0.0%
		40歳以上	85	63.4%
		その他	36	26.9%
		回答数合計	134	100.0%
		マンモ検査間隔		
		1年に1回	48	35.8%
		2年に1回	74	55.2%
		その他	12	9.0%
		回答数合計	134	100.0%
		エコー対象年齢	20歳以上	6
30歳以上			21	15.7%
35歳以上			0	0.0%
40歳以上			21	15.7%
その他			86	64.2%
回答数合計			134	100.0%
エコー検査間隔				
		1年に1回	76	56.7%
		2年に1回	37	27.6%
		その他	21	15.7%
		回答数合計	134	100.0%

内訳→

30～39歳	3	2.2%
40～49歳	4	3.0%
40～56歳	3	2.2%
40歳以上、偶数年齢	6	4.5%

※分母は回答数合計

内訳→

20～39歳	2	1.5%
30～39歳	22	16.4%
30～49歳	4	3.0%
30～56歳	5	3.7%
40～49歳	12	9.0%
40歳以上、偶数年齢	1	0.7%

※分母は回答数合計

			回答数	割合
2018年度	採用の有無	採用	153	15.2%
		マンモ対象年齢		
		20歳以上	3	2.0%
		30歳以上	11	7.2%
		35歳以上	2	1.3%
		40歳以上	97	63.4%
		その他	40	26.1%
		回答数合計	153	100.0%
		マンモ検査間隔		
		1年に1回	56	36.6%
		2年に1回	84	54.9%
		その他	13	8.5%
		回答数合計	153	100.0%
		エコー対象年齢	20歳以上	3
30歳以上			22	14.4%
35歳以上			1	0.7%
40歳以上			26	17.0%
その他			101	66.0%
回答数合計			153	100.0%
エコー検査間隔				
		1年に1回	83	54.2%
		2年に1回	46	30.1%
		その他	24	15.7%
		回答数合計	153	100.0%

内訳→

30～39歳	3	2.0%
40～49歳	4	2.6%
40～56歳	3	2.0%
40歳以上、偶数年齢	7	4.6%

※分母は回答数合計

内訳→

20～39歳	4	2.6%
30～39歳	24	15.7%
30～49歳	6	3.9%
30～56歳	4	2.6%
40～49歳	17	11.1%
40歳以上、偶数年齢	1	0.7%

※分母は回答数合計

■乳がん検診の実施状況について

視触診+マンモ+エコー

		回答数	割合	
2017年度	採用の有無	採用	24 2.4%	
	視触診 対象年齢	20歳以上	1	4.2%
		30歳以上	10	41.7%
		35歳以上	1	4.2%
		40歳以上	4	16.7%
		その他	8	33.3%
		回答数合計	24	100.0%
	視触診 検査間隔	1年に1回	12	50.0%
		2年に1回	9	37.5%
		その他	3	12.5%
		回答数合計	24	100.0%
	マンモ 対象年齢	20歳以上	0	0.0%
		30歳以上	3	12.5%
		35歳以上	0	0.0%
40歳以上		17	70.8%	
その他		4	16.7%	
回答数合計		24	100.0%	
マンモ 検査間隔		1年に1回	9	37.5%
	2年に1回	13	54.2%	
	その他	2	8.3%	
	回答数合計	24	100.0%	
エコー 対象年齢	20歳以上	1	4.2%	
	30歳以上	4	16.7%	
	35歳以上	1	4.2%	
	40歳以上	4	16.7%	
	その他	14	58.3%	
	回答数合計	24	100.0%	
	エコー 検査間隔	1年に1回	12	50.0%
2年に1回		9	37.5%	
その他		3	12.5%	
回答数合計		24	100.0%	

内訳→

30～39歳	2	8.3%
--------	---	------

※分母は回答数合計

内訳→

30～39歳	9	37.5%
--------	---	-------

※分母は回答数合計

乳がん検診の実施状況について

視触診+マンモ+エコー

		回答数	割合
2018年度	採用の有無	採用	22 2.2%
	視触診 対象年齢	20歳以上	0 0.0%
		30歳以上	9 40.9%
		35歳以上	0 0.0%
		40歳以上	5 22.7%
		その他	8 36.4%
		回答数合計	22 100.0%
	視触診 検査間隔	1年に1回	9 40.9%
		2年に1回	9 40.9%
		その他	4 18.2%
		回答数合計	22 100.0%
	マンモ 対象年齢	20歳以上	0 0.0%
		30歳以上	4 18.2%
		35歳以上	0 0.0%
40歳以上		14 63.6%	
その他		4 18.2%	
回答数合計		22 100.0%	
マンモ 検査間隔		1年に1回	8 36.4%
		2年に1回	12 54.5%
		その他	2 9.1%
		回答数合計	22 100.0%
エコー 対象年齢	20歳以上	0 0.0%	
	30歳以上	5 22.7%	
	35歳以上	0 0.0%	
	40歳以上	5 22.7%	
	その他	12 54.5%	
	回答数合計	22 100.0%	
	エコー 検査間隔	1年に1回	10 45.5%
		2年に1回	8 36.4%
		その他	4 18.2%
		回答数合計	22 100.0%

内訳→ 30～39歳 2 9.1%
※分母は回答数合計

内訳→ 30～39歳 6 27.3%
※分母は回答数合計

Q10 「視触診を採用している」とお答えの方にお聞きます。今後の予定はどう考えていますか。

	回答数	割合
1. 来年度(2019年度)からやめる予定	30	7.4%
2. 検討中、まだ決まっていない	127	31.4%
3. やめる予定はない	155	38.4%
4. 無回答	92	22.8%
合計	404	100.0%

Q11 「高濃度乳房」についてお聞きます。貴自治体では、受診者の乳房構成を4つのタイプ別(高濃度、不均一高濃度、乳腺散在、脂肪性)に把握していますか。

	回答数	割合
1. 把握している	274	27.3%
2. 把握していない	633	63.0%
3. その他	94	9.4%
4. 無回答	3	0.3%
合計	1,004	100.0%

① 「4つのタイプ別に把握している」とお答えの方にお聞きます。その結果を自治体から受診者に伝えてありますか。

	回答数	割合
1. 伝えている	74	27.0%
2. 伝えていない	144	52.6%
3. その他	51	18.6%
4. 無回答	5	1.8%
合計・Q11の「把握している」	274	100.0%

乳がん検診の実施状況について

②「高濃度乳房の結果を受診者に伝えている」とお答えの方にお聞きます。受診者に伝えているタイプの範囲はどこまでですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

	回答数	割合
1. 高濃度	68	91.9%
2. 不均一高濃度	57	77.0%
3. 乳腺散在	55	74.3%
4. 脂肪性	53	71.6%
5. その他	5	6.8%
合計・①の「伝えている」	74	-

③「伝えている」とお答えの方にお聞きます。受診者に、「さらなる検査」を受けるよう勧めていますか。

	回答数	割合
1. はい	28	37.8%
2. いいえ	26	35.1%
3. その他	19	25.7%
4. 無回答	1	1.4%
合計・①の「伝えている」	74	100.0%

Q13 2015・2016・2017年度の貴自治体における乳がん検診の受診率をご記入ください。

2015年度

	回答数	割合
～10%未満	65	6.5%
10～20%未満	352	35.1%
20～30%未満	341	34.0%
30～40%未満	134	13.3%
40～50%未満	48	4.8%
50%～	42	4.2%
無回答	22	2.2%
合計	1004	100.0%

2016年度

	回答数	割合
～10%未満	81	8.1%
10～20%未満	415	41.3%
20～30%未満	306	30.5%
30～40%未満	115	11.5%
40～50%未満	42	4.2%
50%～	32	3.2%
無回答	13	1.3%
合計	1004	100.0%

2017年度

	回答数	割合
～10%未満	90	9.0%
10～20%未満	422	42.0%
20～30%未満	270	26.9%
30～40%未満	104	10.4%
40～50%未満	42	4.2%
50%～	34	3.4%
無回答	42	4.2%
合計	1004	100.0%

※この受診率は、何をもとに算定されたものですか。

	回答数	割合
1. 国が推奨した算出方式	546	54.4%
2. 県、もしくは市町村独自で作成した算出方式	347	34.6%
3. その他	72	7.2%
無回答	39	3.9%
合計	1,004	100.0%